水俣病 こうして突きとめた

元熊大研究班座談会

<下>

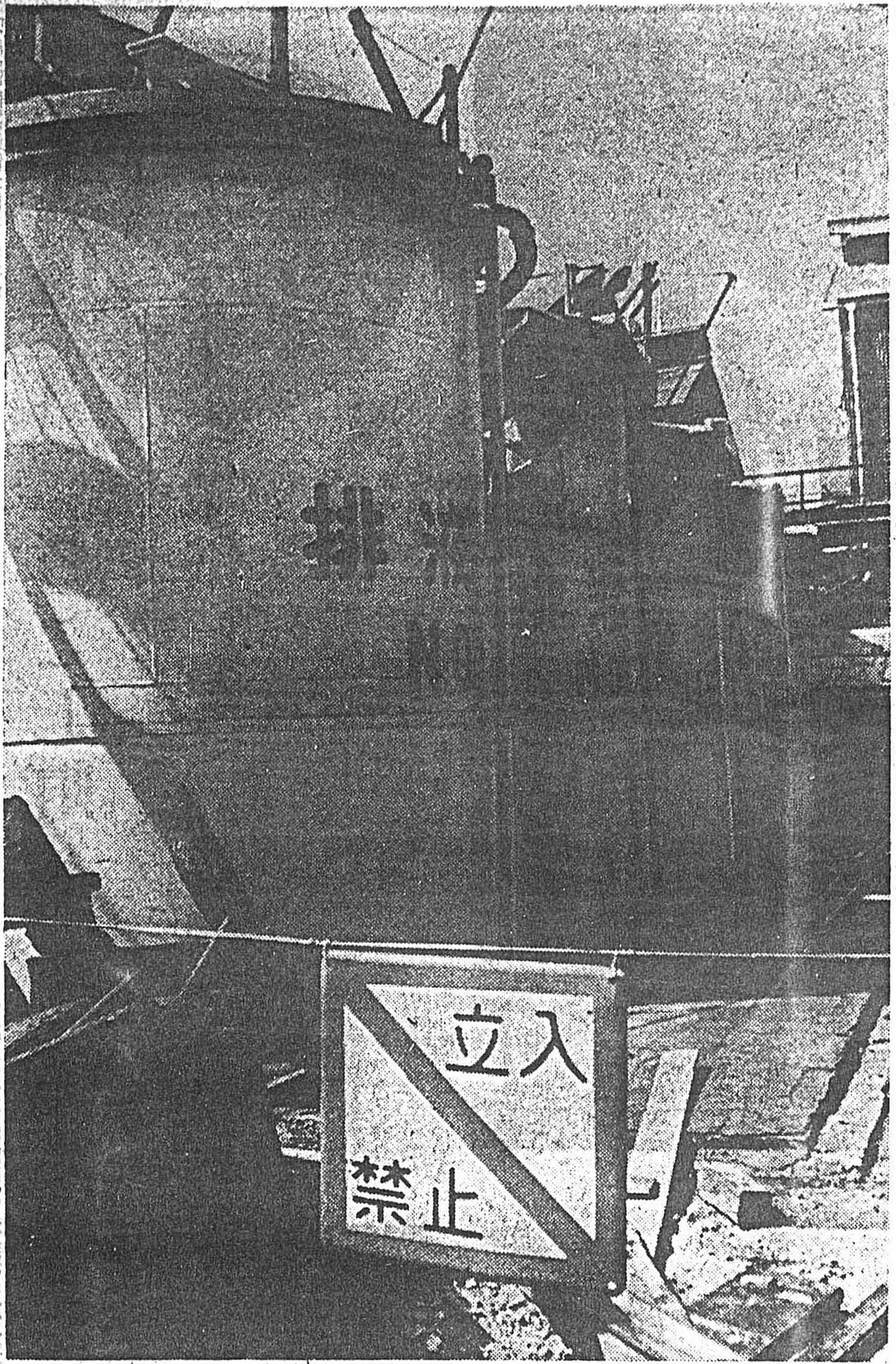
妨害と圧力排除して

企業は人命尊重を第一に

公害背負う成長はニセ

出席者

▽熊本商大学長(元熊大学長、元食品衛生調査会水俣食中毒部会長)　鰐淵　健之氏
▽熊大名誉教授(元熊大水俣病研究班長)　世良　完介氏
▽熊大医学部教授(衛生学)　入鹿山　且朗氏
▽熊大医学部教授(第一内科学)　徳臣　晴比古氏
▽熊大医学部教授(第二病理学)　武内　忠男氏
本社側　真藤編集局次長、藤本政治部長



アセトアルデヒド製造中止後、有機水銀を含む廃液や触媒母液約100トンはタンク5基に入ったまま工場内にある

研究妨げた工場の非協力

―有機水銀と工場との結びつきを明らかにする過程を、もっと詳しくお願いします。

武内　患者の発生当時、水俣湾内の魚が汚染されたのだから、推定としては汚染源が工場にあることはわかっていたが、きっぱりそうだと言い切れぬ。そこで病気と工場の関係をはっきりさせようと思って、生産状況を見せろと会社側に言った。そしてデータをもらったが、患者が発生する一年前から塩化ビニールの生産が急カーブで伸びている。そこで塩ビとの関係をみたわけだが、どうもはっきりしない。しかし、これは入鹿山先生の方で突きとめたことだが、塩ビと同時にアセトアルデヒドの生産も急上昇していたわけですね。

鰐淵　だれでもそうだろうが、私も常識的に工場を疑った。無機が魚の体内で有機化することはこれまでの常識からして考えられぬ。工場廃水そのものの中にすでに有機があると思っていた。だから私たちは工場に、廃水をくれと言ったが、工場は応じない。写真もダメだという。通産省の許可が必要だと言うんだね。入鹿山先生が工場内で職員につかまって、えらい目にあったこともある。そんなことが私たちの研究を妨げたんです。

世良　会社が研究に非協力だったために、私たちは大変な遠回りをしなくてはならなかった。旅順港を攻めるのに正面から攻められずに、裏山からトンネルを掘っていたようなもんだ。会社が廃水さえ提供してくれていたら、原因究明の結論はすぐ出たと思うんです。

ナンセンス御用学者の説

―いろんな妨害、圧力があったわけですね。

徳臣　妨害やいやがらせを排除して真犯人を追う"七人の刑事"みたいなもんでしたよ。(笑い)

私事で恐縮だが、あまりネコを実験に使ったもんだから手足にハレモノができて半年間入院した。ネコのたたりといわれましたよ。

世良　三十四年の五月だったか、東京工大の清浦という教授が熊本に来て、海中に異物はないので工場と水俣病は無関係だと発表したり、日本化学工業協会の大島理事が本を出して、爆薬説(旧軍の爆薬が水俣湾内に沈められていてそれが原因だとする)や腐敗説、アミン説などの諸説を述べて私たちの研究結果に反論してきた。科学的根拠のないナンセンスなものだが、それがしつこくてね。

鰐淵　三十四年の十一月に衆院社会労働委が現地調査に来たとき、当時の西田工場長が調査団に爆薬説を言ったら、そんな報告は聞く必要なしと一喝(かつ)されたこともあったね。バカな話さ。特に戸木田東邦大教授の腐敗物質説に至るとナンセンスというほかない。千葉大学から、一緒に研究しようという話もあったね。

徳臣　他の機関に研究させることによって、熊大研究班の結論が出るのを遅らせようとした意図がうかがえましたね。清浦教授にしろだれにしろ、こちらは全部専門家が取り組んで結論を出したんだから、問題にはならぬ。勝負にはならなかったんです。

―冒頭、鰐淵先生から研究費のことがちょっと出ましたが、大変少なかったわけですね。

徳臣　三十五年度から文部省の機関研究ということになって八十万円から百万円の補助をもらったが、一教室当たり年間二、三万円でしたね。現地には何百回と行ったが、旅費もフィルム代も論文発表もほとんど私費でした。

鰐淵　私たちは会社に、共同で研究しようと言ったが、いやだと言う。チッソは付属病院の細川医師に研究させていたんだから、共同でやればいいと思ってそう言ったんだ。

―三十五年一月に厚生、通産、経企、水産の四省庁で水俣病総合調査連絡協議会が出来て、ここで各説が中和されて原因究明がウヤムヤにされようとしたんですね。

鰐淵　ひどい話さ、私たちが三十四年の十一月に答申を出すと同時に、厚生省食品衛生調査会水俣食中毒部会は解散となり、私は部会長を解任された。そのあと四省庁連絡協議会が出来たわけだが、協議会は四回会合を開いただけで三十六年三月以降は会合も開かず、雲散霧消してしまった。企業防衛の協議会だった。

さらに奇怪なことは、三十四年の十二月二日、衆院農林水産委で赤路委員が、水俣病対策費のうち通産省が五千万円を計上しながら、別途に使った疑いがあると質問したのに対し、当局者は、あの金は伊勢湾台風の被災者の救済に使ったと答弁している。全くあきれた話だ。台風の被災者を救うことを悪いとは言わんが、それでは生死の間をさまよっている患者や生活の道を失った漁民はどうなるのか。政治の貧困ですよね。これは、そのうえ会社は廃水をとらせんという。犯人をつかまえる前に時間をかせいで、証拠を隠滅しようというねらいがあるといわれても仕方があるまい。

世良　すべての手が通産省を動かして、真相をウヤムヤにしようとしたね。

入鹿山　通産省の許可がなければ工場に入れないと私は会社から言われたが、まるで治外法権だ。

動物実験と同時に人体実験も

―会社の付属病院にいた細川医師は、三十四年の七月から十月にかけてネコの実験で、水俣病の原因が工場廃水にあることを突きとめているという話がある。この実験は会社命でつぶされたともいわれますが。

世良　研究の良心と会社との板ばさみになってかわいそうでしたよ。私たちの研究会議には出席していたが、良心的な人でしたね。

鰐淵　私は細川君に、君も医者なら良心的に動けと言った。細川君は、私も苦しいんですと訴えていた。気の毒でしたね。

会社は、廃水で動物実験と同時に人体実験までしたんですよ。それはこんな意味だが……工場は漁民が騒ぎ出したもんだから、それまで百間港の方に流していた廃水を水俣川に流した。そしたらすぐ河口に患者が出た。さらに危険海域が不知火海に広がり、津奈木にも出た。これは人体実験ですよ。医学的に見れば、この事実だけで工場廃水に原因があると断定できるのです。三十四年十一月の答申のときそれを新聞記者に発表すると言ったら、厚生省の役人が私たちをカン詰めにした。その騒ぎのとき水俣から大臣室に陳情団が来ていて、有機水銀説は困るのどうのと言っとるんだ。

―原因がはっきりしたあとの廃水中の水銀の含有状況はどうなっているんですか。

入鹿山　ある程度の幅でふえたり減ったりです。三十四年の十一月に会社は浄化計画を発表し、私はその計画通りに実施されるだろうと思っていたが、実際には浄化装置が出来た当時はアセトアルデヒド工場や塩化ビニール工場からの廃水は浄化装置には入らず、カーバイド工場の方に流れていた。その後何度か廃水のやり方が変わったが、一時期に廃水中の水銀がふえたのは浄化装置が悪かったんで、いまの浄化装置では無機は浄化されるが有機は浄化されない。そこで一昨年の六月、完全循環方式に切り替え、廃水を工場外に出さないことにしたのだ。ことしの五月にアセトアルデヒド工場は操業をやめ、魚介類から検出される水銀量も非常に少なくなった。しかし逆に言えば、これが、それまで水銀が排出されていたことを証明するものですよ。

厚相の姿勢を高く評価

―この水俣病がわれわれに与えた教訓はいろいろあろうと思いますが、いかがですか。

武内　水俣や阿賀野川に限らず、水銀剤は触媒に使われやすい。他の企業でも水銀を使うことがありうる。十分注意して使わないと、同じ問題が起きるでしょう。

入鹿山　各地で水銀の"たれ流し"が非常に多い。横浜では一〇〇PPMも検出されている。廃水管理を強める必要がありますね。

武内　それと、これは私が強く訴えたいことだが、原因のわかりにくい病気が出た場合、解剖に対する協力を遺族の方にお願いしたいということです。

水俣病では、遺族の方々のご協力があった。これが原因究明の大きな力になった。伊藤保健所長(現在県衛生部長)が遺族の方々を説得してくれたのです。それに水俣市役所の係りの人が非常に協力してくれた。

―水俣病は、日本で初めての有機水銀中毒ということで、歴史に残る事件だといえましょう。公害として認定することが早ければ早いだけ、対策も早く立てられる。その点、園田厚相の人間尊重の姿勢は高く評価してもいいと思う。

鰐淵　賛成だ。阿賀野川の第二水俣病を公害に認定しなくてはならんから、本家の第一水俣病を認定するという空気があるのはよろしくないが、それにしても各方面からの圧力を排除して公害に認定しようとする厚相の決意に敬意を表したい。

公害は企業家の良心の問題ですよ。経済成長は国民生活の安定が目的だが、公害を伴う成長は、ニセの成長だといえる。いままで、いろんな手段で私たちの研究を妨害した学者、会社、官僚は、熊大の研究班にあやまるべきですよ。

外的要因での精神障害立証

世良　水俣病研究の功績として忘れてならないのは、内因のほかに外因が精神神経疾患を起こすことがわかったことです。大きな収穫だったといえる。

入鹿山　世界で初めての、有機水銀による公害病ですからね。

徳臣　患者が悲惨な状態で死んだ。一般の人も、政府も、会社も、人命を中心に考えることが一番大切だ。魚の中に毒があることがわかっていながら、法律がないから漁獲を取り締まらん。それでまた何十人もの人が死んだんだ。人間中心に考えねばならんのに、日本ではまだ人命よりも会社の利益の方が優先している。

武内　研究体制のこともありますね。原因不明の病気が発生したら、専門家で研究班をつくることが大切だ。そのことを熊大の成功が実証したと思う。

世良　とかく原因不明の病気は、究明がしり切れトンボになりがちだが、水俣病ではそれがなかった。熊大医学部の大きな功績ですよ。

鰐淵　それにもう一つ。三十四年の二月二日に、食品衛生調査会水俣食中毒部会に水俣病の原因究明を諮問したのは、県出身の坂田厚相だった。その後何人もの厚相は水俣病にノータッチだった。いま同じ県出身の園田厚相の手で結論が出されようとしている。

このことは、中央の代議士がいかに水俣病というものを、地方的な現象と見ているかの証左だ。地方の出来事を軽視するいまの政治の欠陥が端的に表われていると言える。どんな辺地の出来事でも中央で身近に感じて取り上げるような政治のシステムに改めるべきだ。

―いろいろ示唆に富むお話をうかがわせていただき、ありがとうございました。ではこの辺で。

(おわり)